

園番号 710

令和元年度 奈良市立高円こども園 研究実践概要

園長名 中島 良子
全園児数 108名

1. 研究主題

「生き生きとあそぶ子どもをめざして」
～夢中になって遊びこむための環境作りを探る～

2. 研究年度 3 年度

3. 研究主題設定理由

初年度の研究から環境作りでは、一定の成果が見られるが、園全体での取り組みとして課題が残るところが見られた。子どもと一緒に環境に関わり、子どもの発想、気付きを受け止め、それが実現できるような環境とはどんなものなのかを深めていく。また子どもと遊びを創造しながら遊び込める環境とは何かを探るために研究主題を設定した。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

- 子どもたち自ら主体的に夢中になって遊び込めるために、発達に即した環境構成や、援助の方法を探っていく。

②研究の重点

- 「楽しい」「友達と一緒に心地良い」と感じると共に「不思議だな。どうなっているのだろう」と自ら意欲的に遊びを捉え、「明日はこの続きをしたい」とめあてを持って主体的、意欲的に活動に取り組めるような環境のあり方を探る。
- 子どもの姿から10の姿の育ちを読み取り、どのような環境や援助が必要かを考える。
- 子どもの姿や言葉、友達との関わりを丁寧に見取り、夢中になって遊び込める保育教育士の援助の在り方を探っていく。
- 職員間で連携を取りながら、子どもの姿を通して具体的な取り組みを話し合い、主題について共通理解を図る。

③活動の方法

園庭や保育室の環境の見直しを図った。

- 園庭コーナーの位置確認、遊びの為の材料を探る。
- 年齢に応じた遊び場の確保。

【0歳児】 「たのしいね」 9月

6月から8ヶ月のA児が入園してきた。寝返りをして腹這いも出来るようになると、視界が広がり興味のある玩具に手を伸ばす姿が見られた。その姿を捉え、目線に合わせて興味を持てたりするような玩具の配置を考えた。寝返りから腹這いになったA児は、保育者と目が合うと側に行くため、ハイハイをしようと思うが、思うように進めず泣いてしまう。そこで保育者が声をかけながら音の鳴る玩具を鳴らすとその音を目指して自分の動けるぎりバイでそばまでやってきて共に遊ぶ事が出来た。

<考察>

子ども達が心地よく安心して毎日を過ごせるように環境を整え、育児担当保育を進めてきた。信頼関係が深まっていく中で、保育者の声や動作がA児の自分で動きたいという気持ちを芽生えさせ、気持ちの安定と保育者への親しみ、伝えたいという意欲につながっていった

と考える。

【1歳児】 「小麦粉粘土」 2月

A児は寒天や片栗粉などの感覚遊びでは、手が汚れることを嫌がり触ろうとしなかった。しかし、小麦粉粘土で水を入れて固まっていく様子はよく見ていた。しかし、保育者がへビの形につくったものを見せると興味を示したので、手を見せて汚れないこと伝えると自ら触って感触を確かめていた。その後周りの友達がカップや棒を使っているのを見ると、同じように使ってみようとする姿が見られた。

〈考察〉

手が汚れることが苦手な触れようとしなかったがやってみようという気持ちは子どもの様子から感じられた。子どもに手につかないことを知らせたり、興味の引くようなものをつくったりすることでやってみようという気持ちへと繋がっていった。また様々な道具を用意しておくことでより抵抗なく遊ぶ事が出来たと思われる。

【2歳児】 「カッコイイがいいですね」 12月

A児が保育者に「先生髪の毛切ったのか」と言ってバンダナを肩にかけ、頭を触ってきた。「じゃあ綺麗にしておうかな」と答えると、「カワイイがいいですか、カッコイイがいいですか」と聞いてきた。「どうやって髪の毛切るの?」と聞くと、「あっハサミ」と言って積み木をもって来て、切る真似をしている。そこへ「私もきれいにする」と言いながらB児がやってきた。B児も積み木を持って来て二人で髪の毛を切り楽しんでた。しばらくすると、「できたよー、かっこよくなったわ」と言って楽しむ姿が見られた。そのうち遊びが広がり子ども達同士でのごっこ遊びに繋がった。

〈考察〉

子どもの思いを受け止めながらやり取りしたことで、保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で、見立てやつもり遊びを楽しむ事が出来た。子ども達が、経験したことのイメージを膨らませて見立て遊びが展開できるように、見守ったり言葉かけをしたりして援助し、子ども同士の見立てつもり遊びが発展していくような環境を整えていきたい。

【3歳児】 「これも転がるかな?」 10月

どんぐりを持ってきたA児が以前から園庭で、4歳・5歳児がどんぐり転がしをしているのを見ていたので、「先生、コロコロ転がるのしょう」という。必要なものを保育者も一緒に考えながら、いろいろな材料を用意する。「高い所からコロコロするねん」と台の上に段ボールをのせて、どんぐりの滑り台遊びが始まる。どんぐりを転がすだけでなく、どんぐりの帽子まで転がしてみたり、沢山のどんぐりを一度に転がしてみたりと、色々試してみようとする姿がみられた。試す中で、筒の中にどんぐりを入れて転がす子どもや、転がしたどんぐりが飛び出ないように囲いをつくる子どももでてきて遊びがどんどん広がった。

〈考察〉

4歳・5歳のどんぐり転がしを「すごいな」「おもしろそう」と興味深く見ていたことで、自分もやってみようという気持ちが芽生えどんぐりの滑り台が始まった。転がす物によって、転がす音や転がる速さが違う事、また量によっても違う事に興味を持ち、楽しみながら色々試してみようとする姿につながった。

【3歳児】 「バーベキューいかがですか?」 12月

園庭にサクラやモミジ、イチヨウの落ち葉がたくさん落ちているのを見つけたA児は保育者や友達と一緒に落ち葉を拾い、紙吹雪のように飛ばし、落ちる葉を眺めて遊ぶ。次の日、保育者は園庭の机にたくさんの綺麗な落ち葉を置いておく。その近くに複数の段ボールやマット、サッカーゴール、タイヤ、金網など、さまざまな材料を用意しておく。すぐに気づいたA児とB児が、「お店みたい」と段ボールを並べ出す。A児がタイヤの上に金網を置き、「バーベキューみたい」と言って喜ぶ。B児も「わあバーベキューや。お肉焼こう」と落ち

葉や小石などを集め出し、バーベキューごっこが始まる。次の日から、A児達はバーベキュー屋さんの準備し、焼いたものを皿に盛りつけて机に並べ、「バーベキューいかがですか?」とごっこ遊びが広がる。

〈考察〉

身近な自然物の綺麗さに、子どもの心が動かされた。自然物を遊びに取り入れられるように、さまざまな材料を準備しておいたことで、家庭での子どもの経験と結びつき、バーベキュー屋さんに発展した。それによって、友達同士で多くの会話が生まれ、関わって遊ぶ楽しさを味わうことができた。

【4歳児】 「ケーキ屋さんごっこ」 12月

砂場でのケーキづくりが盛り上がった時に、並べる机やパラソルを用意すると、お店屋さんごっこを楽しむようになった。どんなものが必要なのか、毎回振り返りの時間にクラスで話をして深めていった。ケーキ屋さんの場を広く確保し、その近くにケーキの材料として新たにスポンジや箱、ドングリやマツボックリ、ボンド、テープなどを用意しておいたところ、ケーキづくりを夢中で楽しむ子どもがさらに増え「明日もしたい」「次はどんなケーキを作ろうかな」との声が聞かれた。また遊びが進むと、「看板もいるかな?」「とるやつ(トング)もほしい」と次々にアイデアが出て、A児はお店屋さんになりきることをより楽しむようになった。呼び込みだと「ドーナツが売れへん」「お客さんどうやったら来るんやろう」と悩みが出てきた。近くにいたB児と相談し「さっきより大きな声で言おう!」「ぼくみんなに言ってくるわ!」と盛り上がり呼び込みに力を入れ、ケーキもドーナツもたくさん売れるようになった。

〈考察〉

素材や用具などの環境を整えておくことで、さらにイメージが広がり、ケーキづくりを楽しむことができた。振り返りで取り上げ、クラスみんなで考えていったことで、子ども同士で考えを出し合って遊びを広げていく姿につながった。

【5歳児】 「いらっしやいませ」 6月

ふれあい交流会で地域の方へのプレゼントとして、切り紙のコースターをつくった。その後も、切り紙でいろいろな形を切って遊んでいる子ども達であった。そんな中、A児がスズランテープにつくった切り紙をつけ、ネックレスをつくっていた。それを見ていたB児とC児もネックレスをつくったり、ブレスレットをつくったりしていた。A児の「お店屋さんやさんしよう」の声から、アクセサリー屋さんがり、「お金もいるな」「看板もいるで」と必要なものづくりはじめ、お店が始まった。

〈考察〉

切る回数や向きによって変化する切り紙が子ども達の興味に結びつき、身近なお店屋さんごっこへと発展していったと考える。また、文字や数字への興味が出てきたこともあり、看板やお金を作りたいという思いに繋がったと考えられる。これからも子どもの興味関心に寄り添い、思い思いに表現することができる環境を整えることを意識して、保育を行っていきたい。

【5歳児】 「ピタゴラスイッチみたい」 12月

とい遊びを楽しんでいた子ども達のA児が築山をつかって球を転がし始めた。すると傾斜がきつくなり、球に勢いがつき跳ねるのを見て「ジャンプした!」と喜んだ。そこからどうしたら綺麗にジャンプするか、ジャンプした後も上手く転がるかななどを考えながら、友達同士で楽しむ姿が見られた。またといの数を増やしたり転がすものを変えたりするなど、子ども達になり楽しんでいった。その様子を見て、異年齢児も興味を持ち一緒に遊び交流する姿にもつながった。

〈考察〉

子ども達同士でどうジャンプさせるかを話し合ったり、工夫したりする姿がみられた。またいくつかのといを繋げたり、角度や距離などを調節したりするなど自分達で試したり、考えたり、工夫する姿に繋がっていった。遊びこむために必要な準備物や用具を整えることで

子ども達は様々な発想で遊びを展開していくことができると思われる。今後も子ども達の遊びや興味などを把握しながら適切な環境を考え、子ども達が「やってみよう」「やってみよう」と思えるようにしていきたい。

【長時間保育】 「みんなで集まって遊んだよ」 8月

みんなが大好きな「パプリカ」の曲に合わせて踊ったり、各学年に分かれて長いゴムで両脚跳びに挑戦したり「リンボーダンス」のようにくぐったりして体を動かして遊ぶ。大きいクラスの子は小さいクラスの子を「がんばれ～」と応援したり、小さいクラスの子は大きいクラスの子の様子を見て「すごい」「上手やなあ」と憧れの眼差しで応援したりする姿が見られました。その後も、戸外に出た時はお互い名前を呼び合ったり、鬼ごっこしたり一緒に触れ合って遊んでいる姿が見られるようになった。

<考察>

夏の活動として何度か異年齢で集まって遊んだ。はじめは年長児を見て少し緊張していた3・4歳児も大好きな曲が流れると気持ちもほぐれて思わず体を動かしていた。分からないところは年長児の真似をしたりしながら一緒に楽しい時間を過ごすことが出来た。午睡後や長期休業中は、異年齢児が関わって遊ぶ事で色々と刺激をもらい自分達の遊びに繋げていく力になっている。

5. 研究の成果

研究主題を進めるにあたり、乳児クラス、幼児クラスに分かれて話し合いを進めてきた。毎月の保育や環境について振り返りを行い、翌月はどんなところに力を入れていくか、どんな環境を整えていくかなどの確認をしながら進めることができた。また園内研修などを通して意見を出し合ったりしながら園全体で取り組むことも少しずつ行ってきた。

乳児クラスでは、保育者との信頼関係を築く中から子ども達が自ら周りの環境に働きかける意欲の土台作りをすることと、発達や興味関心、子ども達に今どんな力をつけたいかなどを考えながら環境を準備して遊びの楽しさに共感することを大切にしてきた。日々の遊びの振り返りを行い、話し合うことで保育者同士が様々な意見を出し合いながら、思いを共有し保育環境を考えていくことができた。

幼児クラスでは、保育室の環境はもちろんのこと、園庭の遊びを見直したり、準備物を整えたりなど担任同士で意見を出し合うことで少しずつ子ども達が自ら試したり、友達と遊びを進める姿も多くみられるようになってきた。

またつぶやきを拾い上げたり、様々な素材を工夫したりしていくことで自分のしたいことが実現でき、さらにイメージを広げ、また明日もやってみようと思える子どもの姿がみられた。また日々の振り返りや話し合うことで経験したことや考えたこと等を伝えることの楽しさも感じることもできた。

6. 今後の課題

今年度の研究を通して、環境を考えていくという事では、一定の成果があったと思われるが、これからも子どもの姿を見ながら子どもと共に環境に関わり、遊びを共有し、益々子ども達が遊びこめる環境とはどんなものなのかを考察していくことが大切であると思われる。また保育者同士の互いの思いや考えを話し合いながら保育者全体で取り組んでいくことが必要である。

また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえながら子どもの姿を出し合い、発達段階に応じた指導計画や環境、援助などをさらに見直していきたい。